

Akihaもち麦プロジェクト

田園資源 × 子育て × 福祉 × 保健・医療

社会福祉法人 親和福祉会
(Akihaもち麦プロジェクトメンバー)

<取り組みの概要>

- ◆ 大麦（もち麦）を、同法人が運営する複数の福祉事業所で栽培から加工・販売までを手掛け、障がい者の雇用促進に取り組んでいる。
- ◆ 行政をはじめ同じ秋葉区内の研究機関や農業者、JA、シェフと連携し、大麦（もち麦）の6次産業化、地産地消を実現。

<取り組みの効果>

- ◆ プロジェクトに参加する農家との農福連携がはじまり、農作業を通して障がい者の社会参加に繋がっている。
- ◆ 取組みをきっかけにプロジェクトの輪が広がり、現在では近隣農業者と連携して、農作業や加工体験による保育園・こども園等での情操教育の一助を担っている。
- ◆ 健康に良いとされる機能性成分「大麦β-グルカン」を含んだ自社商品が『新潟市健幸づくり応援食品』に認定された。
- ◆ 新潟市12次産業化優良事列表彰2017 優秀事例賞受賞（『秋葉区六条大麦プロジェクト』として）

<社会福祉法人 親和福祉会>

- ◆ 概要 : 新潟市秋葉区を拠点に、7つの障がい者支援施設を運営。「よりよく生きる（To live better）」を法人理念に掲げ、障がいのある方が生まれ育った地域の中で、安心して暮らし、その人らしく、よりよく生きることができる地域社会づくりを目指し活動中。

- ◆ ホームページ : <http://shinwa-fukushi.jp/>

<取り組みに至った経緯>

- ◆ 障がい者の就労の拡大と工賃アップを目的として大麦活用を始めた。
- ◆ 地域の人や機関と関わることは、利用者の社会参加促進と、社会福祉法人としての地域連携・地域貢献につながると考え、取組みを開始した。

<取り組む際に生じた課題と対応方法>

- ◆ 大麦栽培に関する知識、必要な設備・機械等が全く不足していたが、プロジェクトメンバーの農家の全面協力を得ることで、栽培を開始することができた。
- ◆ 保育園・こども園や地域住民・飲食店等への周知等を行政が担ってくれた。

<Akihaもち麦プロジェクトメンバー>

- ・親和福祉会 : 障がい福祉施設（栽培・収穫・精麦・製粉・加工・販売）
- ・白銀カルチャー : 農業法人（農業指導・栽培・収穫・販売）
- ・新潟薬科大学 : 大学研究機関（健康機能性の分析・評価等）
- ・JA新津さつき : 農業相互扶助（アドバイザー）
- ・御菓子司 羽入 : 和菓子（商品開発・製造・販売）
- ・サンカントピュール : 洋菓子（商品開発・製造・販売）
- ・新潟市秋葉区役所 : 産業創造推進（プロジェクトコーディネーター）



<今後の展望>

- ◆ 大麦（もち麦）活用をとおしてつながった人や機関と連携し、それぞれの役割を活かしさらに地域での連携を広げる。総合学習でとりあげてもらうなど、地域の子どもたちにプロジェクトに関わってもらおう仕組みづくりをすすめる。

<活用した支援施策>

- ◆ 新潟市健幸づくり応援食品認定制度

